

FT8ユーティリティの使い方

1. 出来る事

現在の Version では次の事が出来ます。

- (ア) LOG ファイルを Backup する。また直接画面表示する。
- (イ) LOG ファイルの中身を表示する。
- (ウ) DXCC ENTITY LIST の中身を表示する。
- (エ) QSO した Entity を BAND 毎に一覧表表示する。
- (オ) 新 Entity の QSO 経歴を List 表示する。
- (カ) 方位地図を表示する。
- (キ) 1 台の PC を用い、複数の無線機で運用する場合に WSJTX. INI ファイルをその無線機にあったものに変更・設定する
- (ク) Prefix を入力し Entity を検索する。同時に BAND 毎のその Entity の QSO 数を表示する。
更に、表示された QSO 数をクリックするとその月日、時間などのデータを一覧表示する。
- (ケ) PC の時計を標準時間で校正する。

2. 制約

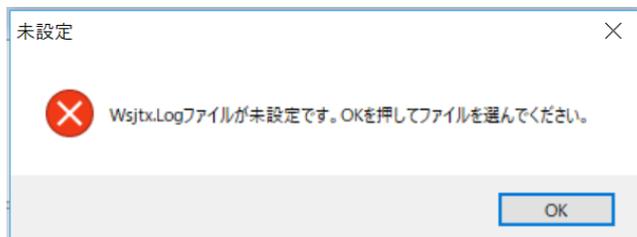
Excel が Install されていないといけません (今後、Excel 無し版も検討したい)

3. 運用の実際

先ずショートカットをクリックしプログラムを起動する。



一番最初の起動時だけ、次の WINDOW が表示されるので”OK”ボタンを押す。



エクスプローラが表示されるので、WSJTX を INSTALL したフォルダにある WSJTX.LOG を指定する。



これで下のようなメイン画面が表示されるので、必要なユーティリティー操作を行う。



以下、目的により次ページからの操作を行う。

(ア) LOG ファイルを Backup する。

“ファイル”をクリックし、表示されるプルダウンメニューで”LOG バックアップ”をクリックする。

これで、201805201721_WSJTX_BCK.LOG のような WSJT-X.LOG をバックアップしたファイルが出来上がる。ファイル名の数字は年月日・時・分を表す。

出来上がるフォルダは、WSJT-X.LOG と同じフォルダである。



(イ) Log ファイルの中身を表示する。

“ファイル”をクリックし、表示されるプルダウンメニューで”OPEN LOG FILE”をクリックする。

これで、WSJT-X をインストールしたフォルダにある LOG ファイルがメモ帳で表示される。WSJT-X 画面からも直接開くことが出来るが、エクスプローラで WSJT-X.LOG をクリックしないと開けないため、そのフォルダ内に複数のファイルが存在すると煩わしさを感じる為、ここからも表示出来るようにした。



(ウ) **DXCC ENTITY LIST** の中身を表示する。

“ファイル”をクリックし、表示されるプルダウンメニューで”OPEN DXCC LIST”をクリックする。

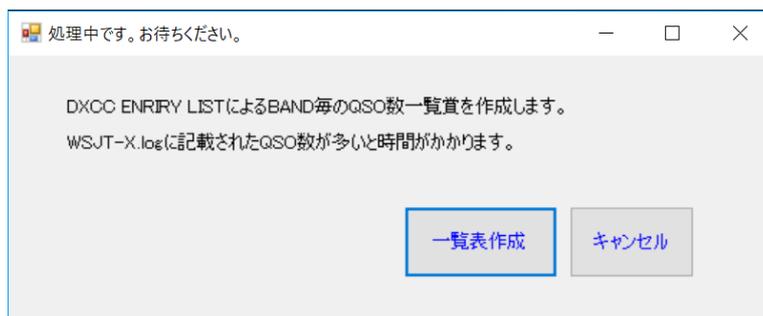


(エ) **QSO した Entity を BAND 毎に一覧表表示する。**

“LIST 作成”をクリックし、表示されるプルダウンメニューで”DXCC WKD 一覧”をクリックする。



下の WINDOW が表示されるので “一覧表作成ボタン”を押す。



DXCC_ENTITIES_MODIFY.XLSX に QSO 実績数を書き込んだ表が表示される。

#	Prefix	Entity	continen	ITU zone	CQ zone	GL	1.9	3.5	7	10	14	18	21	24	28
266	UU,UK,UL,UM	Uzbekistan	AS	30	17	MM11									1
267	UN,UO,UP,UQ	Kazakhstan	AS	29, 30, 31	17	MO51									1
268	UR,US,UT,UU,UV,UW,UX,UY,UZ,EM,EO	Ukraine	EU	29	16	KO50					1				4
269	V2	Antigua & Barbuda	NA	11	8	FK97									
270	V3	Belize	NA	11	7	FK57									
271	V4	St. Kitts & Nevis	NA	11	8	FK87									
272	V5	Namibia	AF	57	38	JG87									
273	V6	Micronesia	OC	65	27	QJ96									2
274	V7	Marshall Is.	OC	65	31	RJ57									
275	V8	Brunei Darussalam	OC	54	28	QJ74									
276	VA,VB,VC,VD,VE,VF,VG,VO,VY	Canada	NA	2, 3, 4, 9, 75	1, 2, 3, 4, 5	FN25						2			
277	VK,AX	Australia	OC	55, 58, 59	29, 30	QF44					17		2		16
278	VK0	Heard I.	AF	68	39	MD66									
279	VK0	Macquarie I.	OC	60	30	QD95									
280	VK9C	Cocos (Keeling) Is.	OC	54	29	NH87,88									

QSO 済の Entity 欄（実際は Prefix 欄）は緑色で塗り潰される。また最下部には総数が表示される。

尚、保存が必要な場合は別名で保存し、DXCC_ENTITIES_MODIFY.XLSX は原本として、そのまま残すようにする。

誤って、同名で上書き保存してしまった場合は BAND 毎に書き込まれた QSO 数を削除し空欄にして上書き保存しておく。

#	Prefix	Entity	continen	ITU zone	CQ zone	GL	7	10	14	18	21	24	28	
331	ZD9	Tristan da Cunha & Gough I.	AF	66	38	IF32, IE59								
332	ZF	Cayman Is.	NA	11	8	FK99								
333	ZK3	Tokelau Is.	OC	62	31	AL40								
334	ZL, ZM	New Zealand	OC	60	32	BF78			2			6		
335	ZL7	Chatham Is.	OC	60	32	AF16								
336	ZL8	Kermadec Is.	OC	60	32	AG10								
337	ZL9	Auckland & Campbell Is.	OC	60	32	RD39, RD47								
338	ZP	Paraguay	SA	14	11	GG14					1			
339	ZR, ZS, ZT, ZU	South Africa	AF	57	38	KG44								
340	ZS8	Prince Edward & Marion Is.	AF	57	38	KE83								
#	END	Entity	continent	ITU zone	CQ zone	GL								
		総QSO回数					0	0	116	4	210	0	0	330
		総Entity数					0	0	26	3	39	0	0	

(オ) 新 Entity の QSO 経歴を List 表示する。

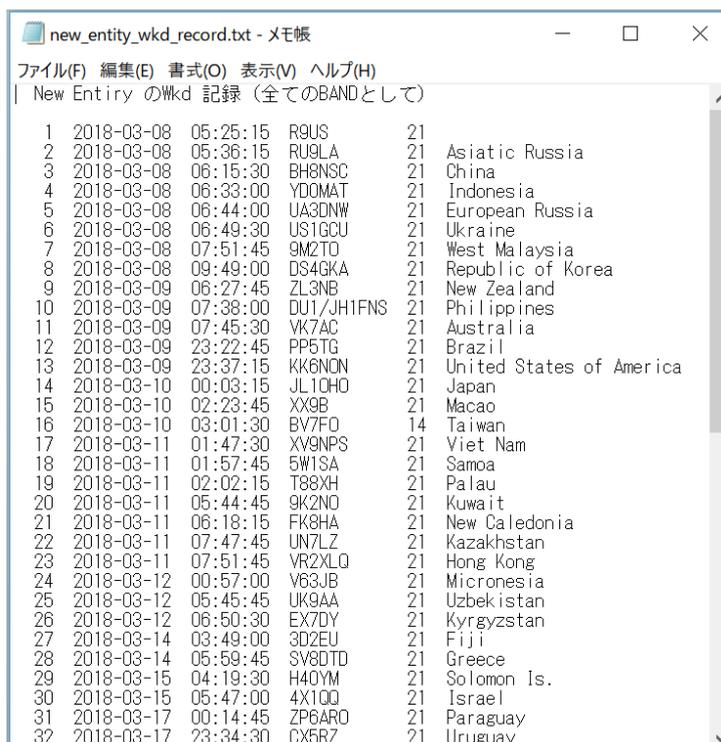
“LIST 作成 “をクリックをクリックし、表示されるプルダウンメニューで
” NEW ENTITY WKD 記録 “をクリックする。



下に様に作成した LIST のフォルダとファイル名が表示されるので、”OK”ボタンを押す。



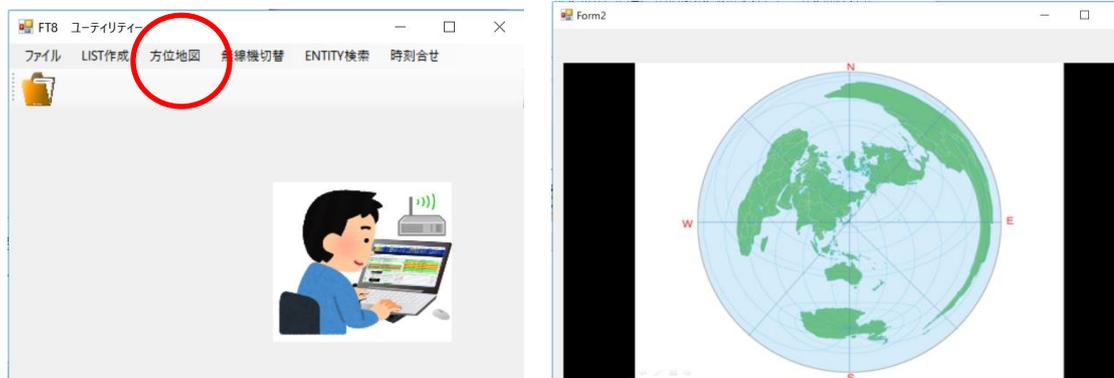
下に示すような Entity 毎の初 QSO 履歴が作成・表示されるので、必要に応じて保存する。
ファイル名は、New_entity_wkd_list.txt である。



(カ) 方位地図を表示する。

DX QSO 中にその Entity の方位を知りたい時に方位地図を表示するとビームを向ける方向が分かり便利である。

“方位地図” をクリックすると右図のような地図が表示される。

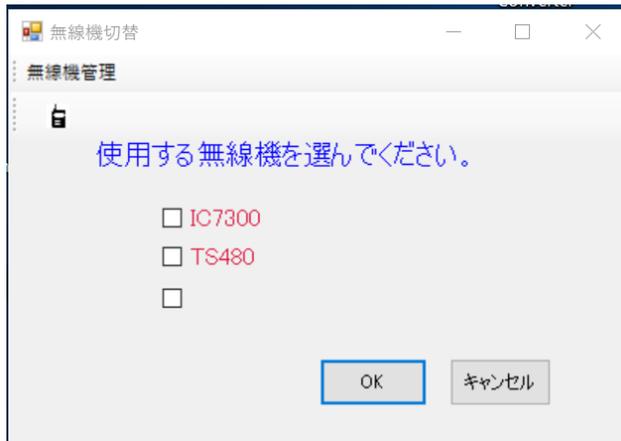


(キ) 1台のPCを用い、複数の無線機で運用する場合に WSJTX. INI ファイルをその無線機にあったものに変更・設定する。

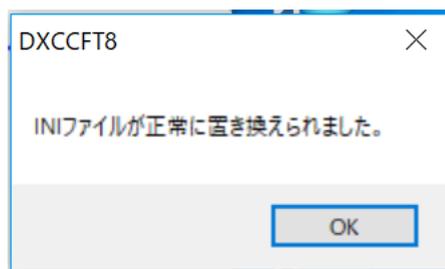
“無線機切替” をクリックする。



次ページの WINDOW が表示されるので、使いたい無線機にチェックを入れて”OK”ボタンを押す。

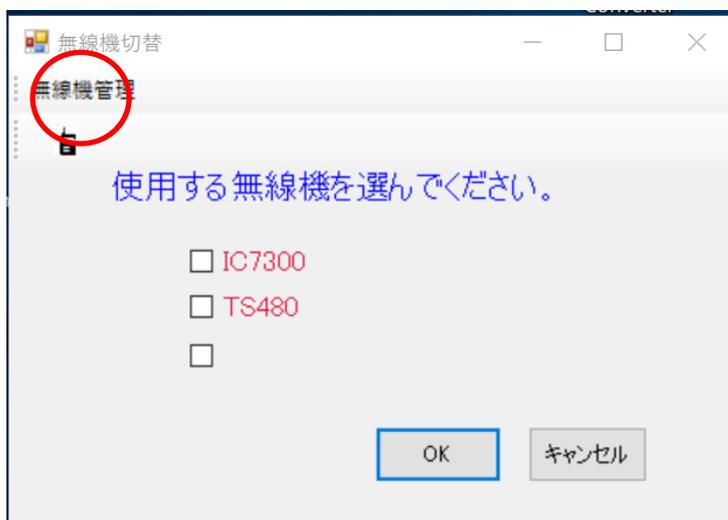


その無線機名の付いた、WSJTX_TS480.INI などがプログラムと同じフォルダにあれば問題なく INI ファイルが置き換えられ次の WINDOW が表示される。
ファイルが無かったり、名前が違っているとエラーWINDOW が開く。



なお、上の図に表示される無線機の名前の登録は次のように行う。

“無線機切替 “WINDOW にある” 無線機管理” をクリックする。

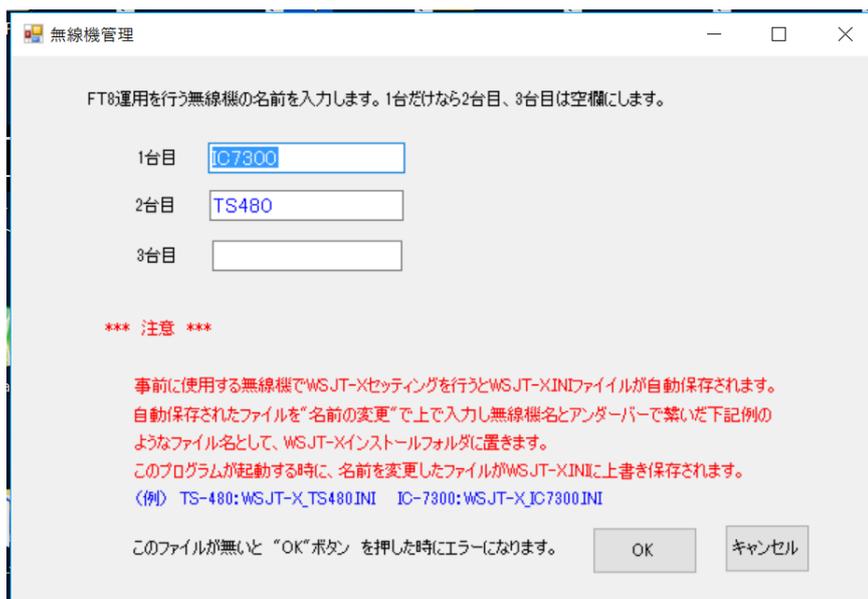


下の WINDOW が開くので使用する無線機名を入力する。
もし、削除したい時は空欄にすればよい。

重要なことは、夫々の無線機用 INI ファイルの目印とするため、ここで入力した無線機名を INI ファイル名の一部として使うことである。

(例) WSJTX_TS480.INI

無線機切替用の.INI ファイル名は下図で入力する無線機名と同じ文字列を使用したものにするので、WSJTX_無線機名.INI のようにする。

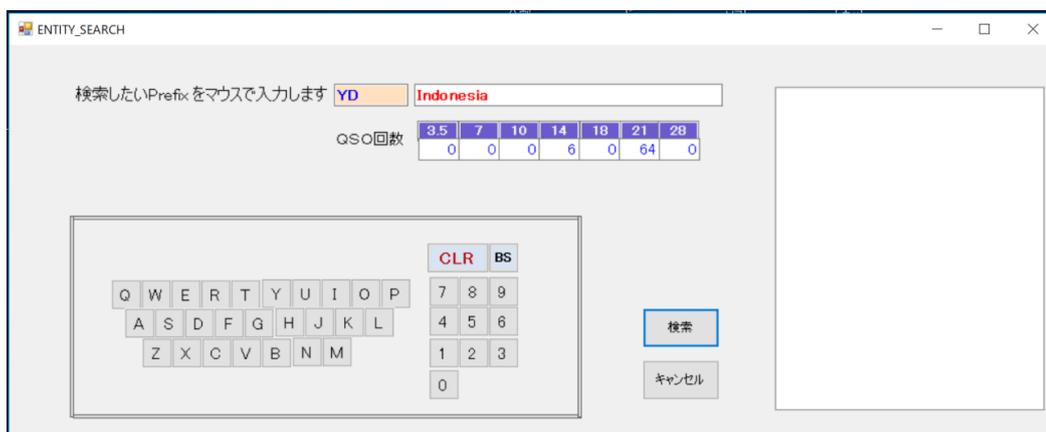


(ク) Prefix を入力 Entity を検索する。同時に BAND 毎のその Entity の QSO 数を表示する。
更に、表示された QSO 数をクリックするとその月日、時間などのデータを一覧表示する。

“ENTITY 検索”をクリックする。



下の WINDOW が表示されるので、マウスで画面のキーボードをクリックしながら、検索したい Prefix を入力し、“検索” ボタンを押す。



該当する Entity があれば Entity 名が表示される。同時に BAND 毎の QSO 数が表示されるので、例えば 21MHz の 64 という数字をクリックすれば、その詳細データが右の欄に表示される。なお、“CLR” キーで入力した Prefix をクリアーした場合、また” BS” キーで 1 文字消した場合表示されていた Entity 名と QSO データはクリアーされる。



(ケ) PC の時計を標準時間で校正する。

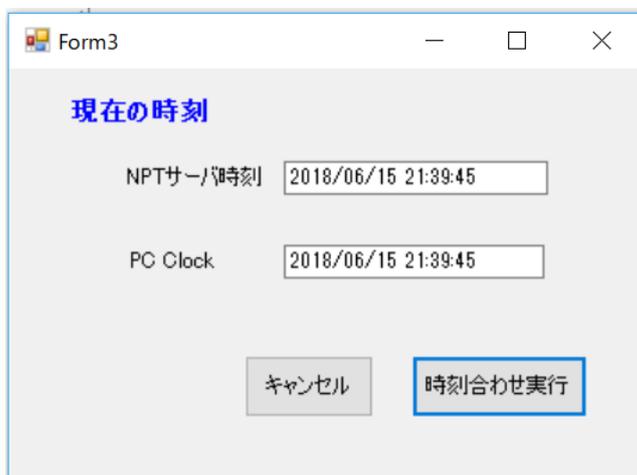
FT8 を運用するには、PC のシステムタイムの狂いは、一般的に 1 秒以内でないといけないとされている。

そこで、メニューからネット上にある標準時を読み込み、それに PC のクロックを合わせる。

” 時計合わせ” をクリックする。



サーバ側にある標準時と PC システムの現在時刻が表示されるので、必要に応じて“時計合わせ実行” ボタンをクリックし、校正を行う。



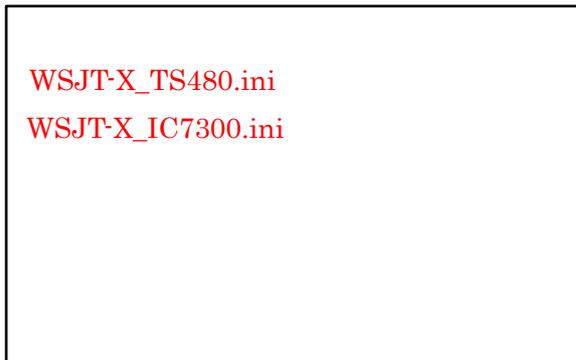
4. 各フォルダの配置

このプログラムが正しく動作するためには、決められたファイル名が正しいフォルダに配置されてないといけません。

(ちなみに当初は、任意ファイル名で任意フォルダに配置出来るようにしたが、WINDOWSの基本操作を理解していないとかえって混乱する可能性があるため、固定フォルダの固定ファイル名とした)

このプログラムが関連するファイルは次の通り。

WSJTX を Install したフォルダ



このプログラムを置いた (任意) フォルダ



赤色：貴方が用意するファイル

黒色：私が提供するファイル

緑色：最初の起動時に自動的に出来上がる

水色：プログラムが自動作成する

5. DXCC ENTITY LIST の編集

Entity に追加、削除が生じた場合：DXCC_EINTITIES_MOFIFY.xlsx の行の追加、削除を行い編集します。

Prefix に追加が生じた場合：半角の“,”で区切り左詰めで追記します。この時、余計なスペースが入らないようにします。1 Entity に属する Prefix は必ず Excel の1行の中に全てを記載します。1行の中で折り返し複数段になるのは問題ありません。2行に跨った入力をするデータがおかしくなり思った結果になりません。

Prefix に削除が生じた場合：単にその Prefix を Delete します。